



そのだ南

尼崎市立園田南小学校
学校便り 第5号
令和2年7月1日

HPアドレス www.ama-net.ed.jp/school/E45/index.html

失ってはいけないもの

校長 佐藤喜代子

梅雨入りして蒸し暑さが続き、熱中症が気になる中ですが、子ども達は元気よく学校生活を取り戻しつつあります。尼崎市では新たな感染者は見られないものの、新たな生活様式を踏まえた学校生活を段階を経て進めています。本校では、人数や広さの問題で密を避けられない状況ではありますが、活動を妨げない工夫をしながら学習活動を進めています。

保護者の皆さまには突然のお願いにもかかわらず、トイレ掃除のお手伝いをいただき、心より感謝申し上げます。丁寧で行き届いた掃除のおかげで、気持ちよく過ごさせていただいています。またPTAより、手洗い場に常時使えるセッケンを設置していただきました。ありがとうございます。

今学期は7月末まで（給食は28日まで）となり、暑い中で学習活動となりますが、暑さ指数を踏まえて、換気や水分補給等にも配慮してまいります。また、今年度より形や内容を一新した「あゆみ」についてのお知らせをさせていただきますので、ご了承お願いいたします。今後の行事計画等についてもその都度、お知らせしていきます。『新型コロナで失われた社会力』という記事を紹介いたします。

元々人間はこの数百年の間、信頼できる人の輪を広げるように進化してきた。脳が大きくなったのはつきあう人の数が増えてそれに対処するために社会脳としての機能が高まったという説がある。ことばが登場する前に人と人をつなぐ役目を果たしたのが食事である。数日に一度食べればいい肉食動物や冬眠する動物と違って、猿や類人猿と同じような雑食の人間は、毎日食物を消化するのに適した臓器を持っている。しかし、猿たちは食べるときには分散するのに人間はむしろ集まって食事をする。これは、猿たちにとっては食べ物がけんかのもとになるのに対し、人間は食物を親しくなるための道具として用いるからである。古くから人間は、食事を社会的手段として活用することによって信頼できる人間関係を拡充してきた。しかし、その密接なつきあいは感染症の病原体にとって絶好の温床にもなる。感染症は密接な接触をする動物で発生しやすく、野生動物を家畜化したことから人間に感染し始めた。至る所で開発が進み野生動物と接触する機会が増えたことやグローバルな人の動きが加速したことが感染拡大の主な原因だが、今回は感染源が特定できずに治療法も開発されていない。今のところ濃厚な接触を避けることが感染を防ぐ唯一の方法だ。今までは食卓を囲む仲間だけでなくそれに関わる全てのものに今まではその安全性を疑ってこなかった。この機会に食事によって担保されてきた信頼というものを改めて考え直した方がいい。長い進化の過程を経て築き上げてきた共食という社会力を私たちは手放すべきではないであろう。対面の食事の大切さを再認識するいい機会でもある。自宅にいる機会が増えたら家族で食事をする意味を考えてみる。この閉塞時の気づきが人間の作ってきた共食という社会力をさらに大きくしてくれるに違いない。参照：京都大学長 山極寿一 R2.5.11 読売新聞

あわせて、今はいろいろな番組やネット配信の中で「おうちごはん」に関するものを見かけます。中には、有名なシェフが家でできる簡単な料理でレシピを披露してくれたりしています。思わず見入ってしまう内容もあり、日々悩ませられる献立のヒントとして役立っている人も少なくないのではと思います。その中に、料理を家族での団らんに上手く活かしている姿を見ると、こういう時間を持つことを大事にしてほしいと改めて思います。料理に限らず、手作りの良さを再認識するチャンスでもあります。

そして、いろいろな意味で家での過ごし方、家族との時間、節約する工夫や家事の分担を見直すいい機会となってほしいと願っています。また、こんなハッとさせる内容もありました。

新型コロナウイルスの感染が広まる以前から、少しずつだが、街でマスクをつける人が増えていたような気がする。大半は花粉症を抑える為だろうが、身を隠したいという思いもどこかにあったのか。電車の中では身を潜めるという以上に周りの人にかかわるまいと見えないマスクをつけている人がいた。いってみれば、回りをないことにするマスク。前に高齢者や妊婦が立っていても近くで騒いでいる人がいても気づかないふりをしてスマホに見入る人。いや気づいていないふりではなく、本当に気づいていないのかもしれない。透明の栓で耳をふさぐことに慣れきってしまったのだら

う。まわりへの関心を封じる。回りを無いことにすると文字通り関係が生まれるのを阻むということだ。

こうした関係の拒絶という風潮を憂う人達が逆に率先してマスクをつけるようになった。このたびの新型コロナウイルスがもたらしたまことに皮肉な事態である。けれどもマスクの装着は緊急の措置であって今禁止されている濃厚接触というのは、本来は人々の喜びの源泉であることを忘れないでほしい。人を喜ばせて喜ぶ。人が喜んでいるのを見て喜ぶというのは、人の習生とも言えるが、おそらく人だけのものではなくて、家族や集団を形成してきた哺乳動物には大なり小なり身についた習性であろうと身近な小動物を見ているとも思う。子どもというのは人もそれ以外の動物も体押し付け合い、なすりつけ合って戯れる。こういう時こそ私たちのもう一つの接触を始動させないといけない。離れていても人を思い、案じる、そういう想像力を活性化したい。人々の声にならぬ想像力を活性化したい。人々の声にならぬ悲鳴に耳を傾けつつ必要なところにお金や物資を回すこと。公共のためにあえてウイルス感染の可能性が高い現場で働いている人達をどう護るか知恵を絞ること。いずれ感染が急激に拡大するかもしれない最貧国の人々のために国際社会が何をすべきか考えること。人が喜ぶのを見て喜ぶというのは現時点ではこういうかたちで果たすべきだとおもう。感染者をなじったり、排撃したりするのは断じてなく、ウイルスとのみならず、他の人達とどのように共存するのかに心を砕くこと。この知恵と心持ちを失えば人類がこれまで血を流してでも育てようとしてきた「ひと」としての品位も地に落ちる。

参照：鷲田清一 もう一つの接触 ～人を思い案じる想像力を～ 神戸新聞R2.4.30

先月のたよりでも触れましたが、感染に向けた予防策と同じくらい大事なものは、人との心の距離だと感じます。誰もが感じている不安やイライラを少しでも和らげ、その中で頑張ろうという前向きな気持ちは人と人との思いやりや支え合う気持ちで潤うものです。人との関係は密であり、温かい言葉が行き交う生活でありたいと切に願っています。

7月 行事予定

1日(水)	諸費振替日	17日(金)	
2日(木)	●	18日(土)	
3日(金)		19日(日)	
4日(土)		21日(火)	
5日(日)		22日(水)	
6日(月)	朝礼	23日(木)	海の日
7日(火)		24日(金)	スポーツの日
8日(水)		25日(土)	
9日(木)	●	26日(日)	
10日(金)		27日(月)	
11日(土)		28日(火)	給食終了
12日(日)		29日(水)	短縮授業 学年別一斉下校
13日(月)		30日(木)	短縮授業 ●
14日(火)		31日(金)	終業式・大掃除
15日(水)		夏季休業日(8/1～8/17まで) ●は定時退勤日	
16日(木)	●	8月18日(火)始業式 24日(月)給食開始 26日(水)委員会	



1 学期生活目標

きまりを守って規則正しい生活習慣を身につけよう

7月のめあて

くつをきちんとそろえて置こう



夏休み中の節電による学校閉鎖について

8月11日(火)から17日(月)まで学校を閉鎖します。

夏季の節電対策として全市的な取り組みです。この間、学校開放業務も休止します。夏休み中だけでなく、日頃から節電には取り組んでいきたいと思ひます。